

2010年

秋

どうそ 満

議員活動報告



発行責任者 道祖 満

飯塚市鯉田2525-44

TEL 25-3280・22-9323

飯塚市議会議員

どうそ

道祖

満

つくります!
newしいづがライフ

e-mail:m.douso@fmwu.or.jp

おぎ は む
いつしかと萩の葉向の片寄りに

そゝや秋とぞ風も聞こゆる

(崇徳院)

皆様お元気ですか。

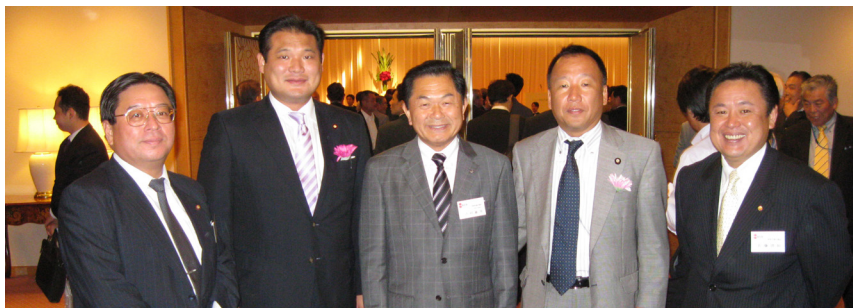
今年の暑さには、本当に参りましたが、良くできたもので9月23日のお彼岸から涼しくなり、天高く景色も変わって見え、秋が来ていることを感じるようになってきました。

9月14日に民主党の代表に菅直人総理大臣が再度選出されましたが、この件に対しては皆様には大変御迷惑をお掛け致しました。

わたしは民主党の地方議員として、この代表選に参加致しましたが、菅首相は就任後3月間であり、大きな失策もなく参議院選挙で議席を減らしたことを理由に代表を替えることが良いことなのか、日本の首相が1年間で何度も替わるが良いことなのか等考えて、菅首相を支持致しました。

さて、飯塚市議会では、9月8日から9月30日まで9月定例会が開催されました。

今回の定例会では、6月定例会に引き続き「大学を利用するまちづくりについて」と、「飯塚市議会議員の一般選挙の日程について」一般質問を行いました。



平成22年9月27日に開催された「民主党福岡県連 風の音夕べ2010」にて山本衆議院議員、吉村福岡県議会議員、大島参議院議員、佐藤飯塚市議会議員と

平成 22 年 9 月定例市議会報告

9月定例市議会が、9月8日から9月30日まで開催されました。

今回の定例市議会では、市役所1階に総合窓口を設置、障がい者等に対応するための庁舎改修する費用2942万3千円、高齢者福祉サービス利用者ファイル等整理事業、障がい児放課後対策事業等に取り組む費用として緊急雇用創出事業臨時特例基金事業費2596万8千円、活力ある高収益型園芸産地育成事業補助金2360万5千円、農業の担い手育成・確保対策事業補助金228万円、地域活性化商品券発行事業補助金1400万円、鯉田中線改良事業に伴う荒巻遺跡発掘遺跡調査受託事業費1532万8千円等が計上された、「平成22年度飯塚市一般会計補正予算（第3号）」

児童扶養手当法の改正でこれまで母子家庭に支給されていた医療費を父子家庭にも支給範囲を拡大するための「飯塚市ひとり親家庭等医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例。」

頤田病院敷地内に療育関連通所施設が設置されることに伴い、この施設の敷地を療育振興プロジェクトに無償で貸し付けるための、「財産の無償貸付け（療育関連通所施設敷）。」

伊岐須会館の廃止と廃止後特定目的普通財産として管理することと、立岩会館・穂波人権啓発センター・筑穂人権センターの休館日の統一のための、「飯塚市同和会館及び人権啓発センター条例の一部を改正する条例。」

飯塚市斎場の管理運営を指定管理者に委託する「指定管理者の指定（飯塚市斎場）。」

本町、飯塚立体、東町駐車場の飯塚市市営駐車場の管理運営を指定管理者に委託する「指定管理者の指定（飯塚市営駐車場）。」

旧筑穂町の地域を対象として、過疎地域自立促進特別措置法の6年間延長に伴い引き続き計画を定めるための、「飯塚市過疎地域自立促進計画を定めること。」等の17議案が審議され、全て可決致しました。

また、18件の各平成21年度会計の歳入歳出決算の認定については、閉会中に審議することになりました。

報告事項については、「平成21年度健全化判断比率及び公営企業の資金不足比率の報告」等4件が報告されました。

議員提出議案は9件審議されましたが、この中で、わたしは「議会の長期空白期間を生じさせないための飯塚市議会議員一般選挙執行日の設定」に関する決議と、「地方公共団体の議会の議員及び長の選挙期日等の臨時特例に関する法律等の制定に反対する意見書」の提出者となりました。（この2件の議員提出議案は、議長を除く33名中30名の賛成で可決されました。

「大学を利用してまちづくり」一般質問

6月市議会の代表質問では、市内にある雇用促進住宅を留学生の宿舎にしてはどうか検討することを要望し、市長も検討することを約束されましたが、その後、雇用促進住宅を管理運営しています財団法人雇用促進協会と交渉をされたのか。交渉されているならば、どのような反応だったのか。また、交渉の結果、市長は、留学生の受け入れは500人構想を持って、この任期4年間では200人を受け入れる体制を整えることを言われていますが、これに対しての実施計画を検討されたのか。先の代表質問では、関係機関と一緒にあって留学生の住居問題には取り組んでいくとの答弁であったが、具体的な動きがあったのか、留学生の受入れ体制の進捗状況を質しました。

2010年(平成22年)9月17日 金曜日

西日本新聞

市立病院寮を留学生宿舎に
飯塚市が検討
飯塚市は16日、市内の外国人留学生の宿舎として、市立病院職員寮(同市分庁)の活用を検討していることを明らかにした。9月定例会議の一般質問で、市幹部が留学生の居住施設の整備について答弁した。

市によると、5月1日現在で、九州工業大や近畿大の外国人留学生計73人がキャンパス内の施設や民間アパートなどに住んでいる。

この日の本会議で、道祖満議員が「斎藤守史市長は任期中に200人の受け入れ態勢を整える、としているが、実施計画は進んでいるのか」と質

これに対して、雇用促進住宅については、平成33年度までに国の方針として譲渡・廃止する事が決まっている。譲渡の条件としては、公的な住宅として10年間は用途の変更はしないこと、現状のままでの譲渡であり現

問。答弁に立った市幹部は、「現在使われていない職員寮2棟(15戸)の活用を前向きに検討している」と述べた。

市立病院は元筑豊労災病院で、病院事業以外の用途変更には、独立行政法人労働者健康福祉機構に申請しなければならないため、市は機構と事前協議をしているという。

在の入居者との契約を継続すること。市が分譲を希望した場合鑑定評価の概ね半額で分譲する。公的な住宅としての用途を変えなければ、一部留学生向けに活用することは飯塚市の判断に委ねる。九州工業大学としては、来年4月より教職員住宅の一部を留学生用宿舎として20戸用意し1戸に3名入居で60名分確保する予定である。また、国際交流会館の单身者向け12戸、家族向け3戸、夫婦向け3戸、市の清水谷留学生住宅16戸を利用することにより、約100名程度の住居は確保出来る見通しであり、平成23年度においては一応の対応はできるとの答弁でした。

この答弁に対し、飯塚市立病院の運営状況の報告の際、看護士寮・職員住宅が空室の状況で利用されていないとの報告があり、この建物を留学生用の住宅として利用することを提案致しました。この提案に対し、職員住宅の2棟15戸については、利用可能であると考えている。病院事業以外の利用について独立行政法人労働者健康福祉機構に対して用途変更の申請が必要で、事前協議書を提出しているとのことでした。

「飯塚市議会議員一般選挙の日程」一般質問

新聞報道で初めて知りましたが、平成22年9月3日、飯塚選挙管理委員会は、飯塚市議会議員選挙の日程について、「地方公共団体の議会の議員及び長の選挙期日等の臨時特例に関する法律等の施行について（通知）」が出た場合は平成23年4月24日（日）に実施が考えられる地方統一選挙に合わせて実施する。この臨時特例法が出ない場合は、平成23年3月6日（日）に、市単独の市議会議員選挙を行うと発表がされたとありました。また、臨時特例法が出た場合、市議会の任期は平成23年の3月10日までですから、3月11日から4月24日までは市議会議員が不在、市議会の不在が44日間となるとあり、政治的空白が長く続くため苦慮したと説明されたとありましたが、結局、選挙管理委員会は、市議会が44日間不在することを選択した。とのことでした。（この新聞報道後、総務省の動きについて調査したところこの臨時特例法は提出される方向であるとのことでした。）

現在、飯塚市は1市4町が合併して5年目を迎えて、小中学校の再編など、市内の全ての公共施設の見直しを行っています。また、市内12地区にまちづくり協議会を設置する方針を掲げるなどしながら、合併後の新しい一体となったまちづくりを進めている状況にあります。

市長も本年度の施政方針では、「これまでの地方分権から、地域のことは地域で決めるという地方主権の確立に向けた取組みが進められています。」と述べられ、まちづくりに積極的に取り組む考えを示されています。

わたしは、このような状況の中で44日間の政治的空白が生じる事が飯塚市のためになるのか疑問に思い、市の考えを質しました。

これに対して、副市長が答弁に立ちましたが、「政治的空白を前提とした臨時特例法については違和感を持つ、臨時特例法の中に在任特例処置が盛り込まれるように市長会等を通じて空白が生じないように国に要望していきたい。」とのことでした。

2010年(平成22年)10月6日(水曜日)

市議 答 衆 府 門

飯塚市議選、統一選
実施なら在任特例を
196議 県市長会が緊急決議
県市長会（会長 北橋健
治・北九州市長）は5日、
行橋市で総会を開いた。来
年3月10日に任期満了を迎
える飯塚市議会について、
同年4月予定の統一地方選
で市議選を実施する場合
は、市議の不在期間が生じ
ないよう在任特例の適用を
国に求める緊急決議を採択
した。

飯塚市議会は、合併によ
る在任特例で議員数が膨ら
み、リコール成立で200
7年3月11日に出直し選挙
が行われた。緊急決議では、
同市議選を統一選に組み込
む場合は、在任特例で任期
満了後も市議を務められる
ようにする必要があると訴
えている。

総会では、各市が提出
した地域主権の早期実現
や都市財政の強化などを
求める議案計39件を可決し
た。

西日本フォーラム 21 公開シンポ

「新時代の公共交通と地域づくり」に参加

10月6日(水)に、大牟田市で西日本新聞社主催の、西日本フォーラム21公開シンポジウム、「新時代の公共交通と地域づくり」と題しての講演が開催されました。

この講演では、戦後各都市の市街地化は鉄道・軌道に沿って発展し、その後道路・モータリゼーションの発展により人口の低密度の市街地として拡散していったが、今後は、人口が減少することに対応してコンパクトな集約型の都市構造への再編が不可欠で、求めるべき市街地像は、基本的な公共交通沿いに集約拠点の形成を促進する事が求められる。と、次の様な国の「集約型都市構造」実現に向けた考え方が示されました。

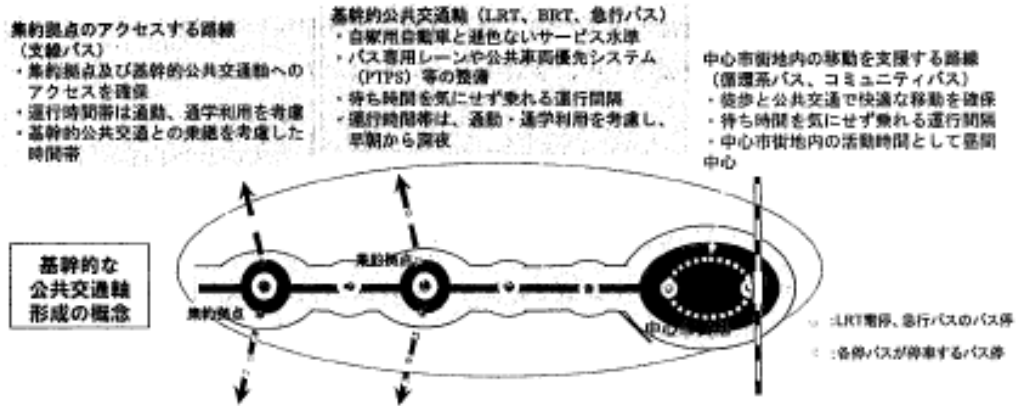
(1) これまでの拡散型の都市構造を放置した場合、

◎高齢者の生活移動の不安(超高齢社会は、生活移動に不安を抱える高齢世帯が大幅に増加する恐れがある、高齢者の自動車運転の交通事故による死者数は、全年齢平均の約2倍) ◎中心市街地のなお一層の衰退(中心市街地からの人口流出と都市機能の拡散は、まちの質的低下を招く恐れがある、夜間人口の低下が続く市街地の停滞は極めて深刻) ◎環境への負荷の高まり(拡散傾向の高い都市は、1人当たりの交通エネルギー消費がより増大する傾向がある、拡散型都市構造を放置することは、環境への負担をかけ続ける状況を継続) ◎都市財政の圧迫(都市施設の維持管理、福祉施策等の行政コストの増大が懸念される) ◎モータリゼーション・スパイラルによる問題の更なる悪化(幹線道路整備によって自動車利用が拡大すると大規模商業施設等の郊外立地のように自動車依存型の都市構造が促進、その結果、新たな道路交通需要が生まれ幹線道路の必要性が高まり、自動車利用の利便性等が向上すれば、一層生活の自動車依存が高まるといったモータリゼーション・スパイラルが生じる)

(2) 目指すべき都市像 集約型都市構造

◎基幹的な公共交通の軸上に集約拠点の形成を促進し、各種機能の集積を図る(中心市街地は、都市全体に必要な高次の都市機能や居住機能等の集約を促進、その他の集約拠点は、居住機能の集約を図るとともに日常的な生活機能を整備する、バス停等の周辺には、居住機能の集積を促進する。) ◎集約型都市構造を支える公共交通には、高度なサービス水準を確保する必要がある(基幹的な公共交通軸では、定時性、運行間隔、運行時間帯等に関して、自家用自動車による移動と遜色のないサービス水準にするとともに、市街地整備による集約型都市構造の形成と連携していく

ことが必要、中心市街地では、徒歩と公共交通で移動が可能となるとともに、高齢者等においても無理なく利用し易い公共交通サービスを提供、集約拠点とその他地域を結ぶ路線では、きめ細かな移動に対して高齢者等でも利用し易い公共交通サービスに配慮)とありました。



飯塚市では、国道200号バイパスに沿い各種の郊外店が出来てきていますが、市は、旧飯塚市の本町・東町商店街等、飯塚駅周辺、新飯塚駅周辺等の区域を中心市街地と指定してこの活性化に取り組んでいます。また、国の補助金でコミュニティバス事業を運営していますが見直しの必要性も指摘されています。これらの状況を講演内容と比較しながら、今後、地域の生活環境が維持できる総合的な視点に立った「まちづくり」に取り組まなくてはならないことに改めて認識した講演でした。

八木山バイパス無料化社会実験交通量増加

現在、八木山バイパスの無料化社会実験が行われていますが、平成22年5月と実験開始後の7月の平日の交通実態調査結果では、国道200号バイパスからの田川方面入り口で「2000台/12H」の増加、堀池では福岡方面「1900台/12H」増加・田川方面「500台/12H」増加、となっています。

実際に八木山バイパスを利用してみますと、田川から飯塚に向かう場合、筑豊烏尾トンネル入口まで1km程度渋滞しています、また、八木山バイパスから飯塚に向かうと堀池、鶴三緒で渋滞となります。

現在の計画では、国道200号バイパスから堀池の間については、平成23年4月には片道2車線で利用出来る予定ですが、残す、「堀池・鶴三緒」、「下三緒・筑豊烏尾トンネル入口(庄内側)」、「筑豊烏尾トンネル出口(田川側)・見立」の間のトンネルを除く部分の片道2車線化の早期完成が交通渋滞緩和には必要です。

市に対して、国に、この交通量の実態調査に基づき、飯塚市と共に関係自治体と共同で早期完成の要望書を提出するように提言をしています。

飯塚第3中を飯塚第1中へ統合要望

飯塚市の教育委員会は、小中学校の再編に関して市内の小学校22校を18校に、中学校を12校から11校にする統廃合の素案を示し、その説明会を12地区で開催致しましたが、この素案の中で、中学校では飯塚第3中学校の取扱いが、当面は存続するが将来的には、飯塚第1中、幸袋中等のいずれかの中学校に統合する内容になっていました。

わたしは、第3中学校だけが将来の方針が明確に示されていない内容であり、この曖昧な方針では、今後の鯉田地区のまちづくりに支障を来すと考え、鯉田地区自治会長会の皆さんと協議を重ね、鯉田自治会長会が中心となって地区住民に飯塚第3中学校の再編についてアンケート調査を行いました。その結果、生徒数の増加が考えられないならば、菰田中学校が飯塚第1中学校に統合する時期と合わせて飯塚第1中学校に統合する事が望ましいとする意見が多数を占めました。

鯉田地区自治会長は、その結果をまとめ、9月8日飯塚市教育委員会に飯塚第1中学校に飯塚第3中学校の統合を求める要望書を提出致しました。

これを受けて、10月13日開催の教育委員会会議で、小中学校再編整備計画案として、飯塚第3中学校は飯塚第1中学校に平成27年度までに統合する事が提案されました。(尚、菰田中学校も平成27年度までに飯塚第1中学校に統合する事が提案されました。)

芸術の秋「池のおく園・中村美術館」見学

飯塚から田川へ筑豊烏尾トンネルを抜けると、関の山交差点の横に「池のおく園・中村美術館」がありますが、これまでこの建物の横を通り過ぎるだけでしたが、秋の声を聞き、思い立って見学に行ってきました。

日本画では、横山大観、平山郁夫、東山魁夷、川合玉堂、洋画では、梅原龍三郎、坂本繁二郎、陶磁器では、加藤唐九郎、板山波山、エミールガレのガラス工芸等、素人のわたしでも、どこかで聞いたことのある有名な作家の作品が展示されていました。

展示作品は、年に数回入れ替えているようですが、北九州市美術館や福岡市美術館に比較しても遜色のない作品が展示されていることに驚きました。

美術館周辺のたたずまいも落ち着いていて静かに秋を感じる事ができました。

